平成 28 年度「土砂災害防止に関する絵画・ 作文」作文中学生の部 優秀賞（事務次官賞）

「 防災 中学生の私にできること 」

愛知県 岩倉市立岩倉中学校 1年 吉田(よしだ) 美岬(みさき)

最近、土砂災害警戒情報を見る事が以前より多くなっている。日本はもともと土砂災害の多い国と言われる。その日本に住む私たちはどの様に災害に立ち向かって行くべきなのか、土砂災害が多い理由を探り、何をして行くべきかを考えて行きたい。

日本は世界でも有数の土砂災害が多い国と言われている。発生件数は年によってかなりのばらつきがあるが、土石流・地すべり・がけくずれを合わせて平均すると、年に約 100 件もの土砂災害が発生している。

日本列島の地形や地質・気象などの自然条件が大きな原因である。また、日本は国土の6割が山地であり、平地がせまいため、山の斜面や谷の出口など災害が起こりやすい場所にもたくさんの人が住んでおり、土砂災害が発生した時に大きな被害が出る原因となっている。他にも原因は多々あるが、その中でも大きな原因になっているのが、雨や地震である。日本は世界の国々の中でも特に雨の多い国で、日本の年間平均雨量は約 1700 ミリで、世界の平均 970 ミリと比較してもその違いが明らかである。更に1年を通じて平均して降るのではなく、梅雨や台風、秋雨などの季節にまとまって大量に降ると言う特徴があるため、土砂災害もそれらの季節に起きやすいのである。また、日本は地震がとても多い国でもある。この地震が原因で、がけくずれや地すべりが起こりくずれた土が川の水や雨水などとまざり土石流が起きたり、河川閉塞というくずれた土砂が川をせき止めて洪水や土石流を引き起こしたりするのである。

以前、北海道の札幌市に住んでいた際に、ゲリラ豪雨がおそってきて、川は増水し、風も強く外に出られないというような状況があった。私の従姉は山の近くに住んでおり、このゲリラ豪雨が起きた時に一時連絡がつかず非常に心配をしたことがあった。まさに土砂災害の起こりやすいがけくずれが発生する可能性があったと思うととてもぞっとするが、この時は幸い何もなく1時間後には電話で無事も確認できたので良かったと思う。また、2年前には北海道の礼文島において 50 年に1度の大雨で土砂くずれが発生し、2名亡くなると言う災害が発生したのを覚えている。今になって調べてみると 24 時間の降水量が 183 ミリに達し、土砂災害警戒情報が出されていたのにも関わらず、避難勧告が出ていないがために自宅待機をしていた親子が土砂くずれにより住宅一棟全壊してしまったと言う災害であった。

冒頭で土砂災害警戒情報を見る機会が多くなっていると述べたが、実際にテレビの速報や最近では携帯電話の防災速報などが大きな音で鳴った場合、本当に指示に従って動く事が出来るのであろうか。私は何か出ていると思いながらも身に大きな危険が迫っていると感じない限り他人事のように流してしまっている事が多いように感じる。大きな揺れなど体感するものには反応するが、まさか雨で住宅街の地盤がくずれるとは思わなかったのが実際である。最近では、「経験した事の無い大雨が降る可能性があります」と言う様な緊急速報が流れる事がある。実際にはそれ程でも無い場合があったりするため、そもそもこの様な防災速報に対する信用度が低下している事もあるのではないか。実際私自身は大げさのように感じることもあり、自分の身に何か起きるとは感じなくなる一因にもなっていたと思う。

ここまで、土砂災害が多い理由を調べ、実際に自身の周りや住んでいた地域で起きた事例を思い出し、自らの災害に対する意識を振り返ってみた。住みよいと思っていた日本が実は災害の多い国であった事に驚き、確かに自分の近くでも災害は起きていたのにも関わらず、自分としては災害に対する意識が非常に低かった事がわかった。

今回私は土砂災害について調べ、考察する機会を得て、土砂に限らず災害が自分の身にもいつ起こり得るかわからない事であり、実際に発生した時にどうするべきなのか、また日頃から防災への意識を高める必要があると強く感じた。自分の居る地域で起こり得る災害を調べて想定しておく事、日々天気予報にも関心を持って情報を得る事、災害時の避難場所を確認して知っておく事、防災グッズを用意し最低でも3ヶ月に1回は中身を確認する事、地域や市の防災訓練がある時には積極的に参加して防災の知識を蓄えておく事。ほんの小さい事でも自分で意識を高めて行く事で本当に起きた時には落ち着いて動く事が出来ると思う。中学生の私でも出来る防災を周りの友人にも伝えて災害に強い人間になっていきたい。